

特別区長との意見交換会 会議録

日 時：令和7年2月3日（月）午前11時16分

場 所：東京都庁第一本庁舎 7階 大会議室

○田中行政部長

それでは、意見交換を開催させていただきます。出席者につきましては、ご覧の座席表をもちまして、紹介に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

テーマは、「スポーツ・パラスポーツ振興」についてでございます。まず生活文化スポーツ局古屋局長からご挨拶させていただきます。続きまして、渡邊次長から、「東京 2025 世界陸上」、「東京 2025 デフリンピック」の取組などについてご説明いたします。

それでは古屋局長、よろしくお願いいたします。

○古屋生活文化スポーツ局長

生活文化スポーツ局長の古屋でございます。本日はスポーツ・パラスポーツ振興をテーマに意見交換をさせていただきます。東京都は現在、東京 2020 大会のレガシーなども踏まえまして、スポーツを通じた明るい未来の東京の実現に向け取り組んでいるところでございます。本番がこの秋に迫ってまいりました、「東京 2025 世界陸上」、「東京 2025 デフリンピック」に向けましても、特別区の皆様と連携・協力しながら進めてまいりたいと存じます。具体的にはこの後、次長の渡邊よりご説明させていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○渡邊生活文化スポーツ局次長

次長の渡邊でございます。よろしくお願いいたします。それでは始めさせていただきます。

本日は、まず東京都のスポーツ・パラスポーツ振興の全体像についてご説明し、続きまして、今年開催の世界陸上とデフリンピックに向けた取組についてご説明をさせていただきます。

まず初めに、東京 2020 大会のレガシーについてでございます。東京 2020 大会はコロナ禍という困難の中、特別区の皆様をはじめ、多くの方々のご協力により、安心安全に開催することができました。この大会は、ハード・ソフトの両面で社会に大きな変化をもたらしました。スポーツの力、素晴らしさを再認識するとともに、バリアフリー化やボランティア文化の定着が進むなど、多くのかけがえのないレガシーが生まれたところでございます。こうした経験を生かしまして、スポーツの持つ力を東京の発展と成熟につなげてまいりたいと考えております。

現在、東京 2020 大会のレガシーも踏まえまして、スポーツを通じて明るい未来の東京を実現するため、「東京都スポーツ推進総合計画」の改定作業を行っております。次期計画では基本理念として「誰もがスポーツを楽しむ東京を実現し、一人ひとりのウェルビーイングを高め、社会を変革する」というものを掲げております。「健康と幸福の実現」、「地域・経済の活性化」、「共生社会の実現」、「スポーツの持続可能性の追求」などの視点から、デジタル技術の進展も踏まえまして、様々な施策を強化してまいります。次期計画の策定に向けて、各区の皆様からも貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。お寄せいただいたご意見も踏まえ、年度内に策定してまいります。

この次期計画の具体化に当たりましては、世界陸上とデフリンピックを好機ととらえております。特別区の皆様と連携して、両大会です、東京に様々なレガシーを残していきたいと考えております。そこで、両大会におきまして、特別区の皆様のご協力をいただきながら進めてまいりたい事項についてご説明をさせていただきます。

まず、両大会について改めて概要をご紹介します。

本年9月に迫った世界陸上は、2年ごとに開催される世界最高峰の陸上大会であり、全世界で10億人もの人々が視聴いたします。東京での開催は1991年の大会以来、34年ぶりとなります。競技は国立競技場で開催されますが、マラソンは千代田区、中央区、新宿区、文京区、渋谷区を通るコースとなっております。今後、この路上競技の実施に向けた交通規制の周知や沿道応援に向けたPRなど、地元の皆様とご相談しながら進めてまいりたいと考えております。

次に、11月に開催されるデフリンピックについてでございます。4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会で、東京大会は日本初開催、また、100周年の記念すべき大会となります。12日間にわたって陸上競技や水泳など21競技が都内を中心とした各会場で行われます。区立のスポーツ施設も会場として使用させていただきます。ぜひ区民の皆様に会場に足を運んでいただき、各国から集まるデフアスリートたちを応援いただければと思っております。

先ほどスライドでも触れさせていただきましたが、東京2020大会ではスポーツをはじめ、様々な分野で多くのレガシーが創出されました。世界陸上とデフリンピックを契機に、これらのレガシーを継承・発展させていくことが重要と考えております。ユニバーサルコミュニケーションの促進、持続可能な社会の推進、子供たちの参画など多角的に取り組を展開し、東京の新たな活力につなげてまいりたいというふうに考えております。

世界陸上とデフリンピックに向けましては、これまで各区に大変ご協力をいただいております。とりわけ、両大会の運営組織に職員を派遣していただいておりますこと、この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。両大会の成功に向けて、引き続きよろしくお願いいたします。

さて、スライドにあります、次代を担う子供たちの参画についてでございます。これまで、お手元に置かせていただいております、デフリンピックへの理解を深め、簡単な手話も学べます、ハンドブック「学ぼう！デフリンピック」をホームページに公開したほか、都内の全小中学校の4年生から6年生、約34万人に配布させていただきました。また、デフリンピックのメダルデザイン投票も実施しております。今後ですが、臨場感あふれる両大会の会場に子供たちを招待したいと考えております。

世界陸上では、日中のセッションが土日祝日のため、保護者の方などに引率していただく観戦の形を検討しております。保護者分を含めて4万席を想定しております。また、デフリンピックでは平日、日中の競技が多いことから、学校単位の観戦を想定しております。会場の規模などを踏まえまして、約6万人を想定しております。詳細につきましては、新学期以降に各学校へお知らせをさせていただきます。

また、国立競技場での陸上教室やデフスポーツをはじめとした競技体験の実施など、スポーツの素晴らしさや多様性、共生社会などを学ぶ体験活動の機会を子供たちに提供してまいります。さらに、子供たちに陸上競技と上手な体の動かし方を知ってもらい、実際に夏休み期間などを利用して、気軽かつ継続的に取り組んでもらえるよう、「スポーツドリル」を作成いたします。都のホームページで公開するとともに、運動への苦手意識を持つ子供が増え始めます小学校の4年生から6年生全員には、冊子にして配布をさせていただく予定でございます。各区におかれましては、各取組について、学校や子供たちへの周知をお願いしたいと思います。都と区の連携によりまして、子供たちにかげがえのない成長と学びの機会を作ってまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

続きまして、外国人やきこえにくい人とのバリアを取り除くためのユニバーサルコミュニケーション技術の普及についてでございます。

これまで、都庁舎をはじめ全38の都有施設に音声が多言語で表示する透明ディスプレイを設置いたしました。また、鉄道駅でのアナウンスを多言語でスマホに表示するシステムの導入も進んでおります。各区におかれましても、多言語翻訳タブレットなどの導入を進めていただいていると伺っております。

今後も引き続き情報バリアフリーの取組を促進し、大会のレガシーにしていきたいと思います。各区の皆様に取り組んでいただけるよう、「ユニバーサルコミュニケーション技術導入に係る推進事業」を来年度の予算案に計上しております。都と区の連携で、共生社会への歩みを加速させてまいりたいと思います。

続きまして、大会への気運醸成についてでございます。これまで大会500日前や1年前の節目のタイミングなどで、各区の広報誌やホームページでPRをいただき、また、イベント等を開催いただきました。とりわけ認知度の向上が課題でありますデフリンピックでは、PRにご協力いただいております。各区のイベントでブース出展のほか、マスコットキャラクターも参加するデフリンピック応援隊も結成いたしました。

これらにより、デフリンピックの認知度も39%と急速に上昇してまいりました。ありがとうございます。今後も連携して両大会の気運醸成を図ってまいりたいと思っております。また気運醸成イベントへの都の補助事業につきましても、引き続きご活用いただければと思います。

さらに、デフリンピックでは、手話をベースとした目に見える新たな応援の型である「サインエール」を、障害当事者の方と開発をいたしました。こちらの普及にもご協力をいただければと思います。世界中から来るデフアスリートを会場であたたかくお迎えしたいと思っております。

以上、世界陸上とデフリンピックについてご説明してまいりましたが、世界中のアスリートが一堂に会する国際スポーツ大会は、アスリートの活躍が感動や興奮をもたらし、スポーツ振興に寄与するだけでなく、東京の活性化やプレゼンスの向上にもつながります。また、多様性を認め合う共生社会の実現や、子供たちに夢や希望を与え、世界へ視野を広げるなど、社会をより良く、輝かせることにつながります。刻々と本番が迫る両大会を成

功させるとともに、大会のその先に東京を一段と成熟させる新たなレガシーを創出するため、特別区の皆様と一層連携し、取り組みを着実に進めてまいりたいと思います。引き続きよろしくお願い申し上げます。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。

○田中行政部長

ここで、区長の皆様からも、ご発言をいただきたいと思います。まず、吉住会長からよろしくお願いいたします。

○吉住新宿区長

このような貴重な意見交換の場を作っていただきまして、ありがとうございます。区長会の方でアンケートをとりまして、とりまとめた主なものを私の方から申し上げさせていただきます。その後、各区長さんからご発言いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

小池知事におかれましては、予算ヒアリング等を通じまして、常日頃より特別区の意見や要望に耳を傾けていただいていることに重ねて御礼を申し上げます。本日のテーマである「スポーツ・パラスポーツの振興」に向け、都区の一層の連携・協力につながる、実り多き意見交換の場にしていきたいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

昨年のパリオリンピック・パラリンピックでは、トップアスリートの素晴らしいパフォーマンスに勇気と元気を与えていただきました。そして、今年は「東京 2025 世界陸上」及び「東京 2025 デフリンピック」が開催されます。23 区でも多くの競技が行われ、本日のテーマである「スポーツ・パラスポーツの振興」への気運を高めるには絶好の機会だと考えております。スポーツ・パラスポーツの振興により、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会を実現することは、区民の健康増進や共生社会の実現に資する大変重要なものであると認識しております。

それでは4点お話しさせていただきます。

1 点目は、「デフリンピックに向けた気運醸成」についてです。

デフリンピックの開催は、パラスポーツの振興や障害者への理解促進に向けた、またとない機会だと捉えております。開催を目前に控え、各区で展示や競技体験など、気運醸成に向けた様々なイベントを実施しています。東京都にも各区のイベントにブースを出展していただくなど、ご協力をいただいています。今後も東京都とのイベント等にも連携・協力をしながら、より一層の気運醸成を図ってまいりたいと考えております。

2 点目は、「スポーツができる場の確保」についてです。

特別区は、地価や賃料が高く、スポーツができる新たな場所の確保が困難であり、また既存施設についても老朽化が進み、大規模改修による改築・改修費用の負担や代替施設の確保が課題となっています。東京都におかれましては、都有地、都有施設の利活用の推進や利用可能な民間施設の情報提供などのご協力をいただき、都区で連携しながら都民・区

民のスポーツができる場を確保できるよう取り組んでまいりたいと思います。

3点目は、「パラスポーツの普及促進」についてです。各区では、ユニバーサルスポーツ大会やパラアスリートによる講演、パラスポーツ体験会等を開催し、パラスポーツの普及を図っています。パラスポーツの普及は、障害者への理解促進やまちのバリアフリー化に寄与し、共生社会の実現に資するものであると考えています。一方でパラスポーツの指導員の確保などの課題もあるため、今後も東京都と連携・協力しながら、さらなるパラスポーツの普及促進に取り組みたいと存じております。

4点目は、「部活動改革」についてです。部活動改革については全国的な課題となっており、特別区にとっても喫緊の課題であると認識しております。部活動における地域移行や外部人材の活用には、指導員の確保、財政的な負担などの課題があります。未来を担う子供たちが自分の希望するスポーツに取り組めるよう、東京都と協力しながら連携を深め、部活動改革に取り組んでまいりたいと存じております。

このほか、各区におきましては、マラソン大会の開催や区内を拠点とするスポーツチームとの連携協定など、スポーツ・パラスポーツ振興に向けた様々な取組を実施しております。交通規制や活動場所などでの連携ができればと考えております。

この後、出席の役員区長からもご意見があるかと思いますが、スポーツ・パラスポーツの振興を、より効果的に進めていくためにも、これまで以上に都区が連携・協力していくことが不可欠であり、そのために忌憚のない活発な意見交換ができればと考えております。本日はどうかよろしくお願いいたします。

○田中行政部長

ありがとうございます。続きまして、副会長の前川練馬区長からよろしくお願いいたします。

○前川練馬区長

私はデフリンピックについてお話ししたいと思います。

私は長い間、行政に従事してきましたが、障害者福祉は私が行政に取り組む原点でありました。そもそも東京都に入ったのは、社会福祉行政に従事しようと決心したからなんですけれども、最初の職場が日本で初めて設置されたばかりの都立障害者福祉センターでした。そこでいろんなことをやりました。肢体不自由者更生施設の運営、視覚障害者や聴覚障害者の日常生活のリハビリ、知的障害と視覚障害が重複した子供の成長を支援する職場の様々な現場で仕事をしました。その経験から、日常生活、社会生活でコミュニケーションが一番難しい障害が聴覚障害だと考えています。加えて、外見上分かりにくいですから、様々なご苦労があります。したがって、リハビリについても、他の障害と違った難しさがあります。この2点、コミュニケーションの難しさ、それからリハビリの難しさ、これを忘れてはならないと私は考えておりました。

今回のデフリンピックは、そういう意味で、障害者福祉行政が前に進む契機となり得る

大会であると思います。聴覚障害の方々が、地域から隔離された特別な存在であってはならない。この当たり前のことが、広く社会に浸透しなければなりません。だからこそ、今回の大会にかける期待は大きいのであります。

聴覚障害者に対する社会全体の理解が深まるよう、東京都と連携して気運醸成に取り組みたいと考えております。よろしくお願いします。以上です。

○田中行政部長

前川区長ありがとうございました。続きまして、副会長の斉藤江戸川区長、よろしくお願いします。

○斉藤江戸川区長

私からは2点、お話をさせていただきます。

1点目ですけれども、本区では、令和2年から「東京2020パラリンピック競技大会」の全22競技を区内でできる環境を整えました。こうした取組によりまして、本区にスポーツに親しむ人口なんですけれども、令和2年に1,500人でしたが、令和5年には1万2,000人と、分かるだけでも約8倍になりました。また、パラスポーツへの環境整備をさせることは、同時に、施設までの、例えば段差解消だとか、道路整備、まちのバリアフリー化にも繋がっていくと考えています。しかしながら、パラスポーツ環境を拡大していくためには、会場や指導員の確保という課題もありまして、東京都と一体となり、取組をさせていただきたいと思っています。

2点目です。今年開催されますデフリンピックに関連して、区内中学校におきまして、昨年12月にデフサッカーの女子の日本代表選手3名をお招きをいたしまして、全校生徒に対し講演や体験会を行いました。体験会では手話などを使ってコミュニケーションを図るゲームを行うなど、サッカーだけではなくて、聴覚障害者への理解が深まる場となりまして、デフリンピック東京大会への気運を醸成させる良い機会となりました。

誰もがスポーツを楽しめる東京を実現させるためにも、本区も引き続き積極的にスポーツ振興に取り組んでまいります。以上です。

○田中行政部長

ありがとうございます。続いては、ブロック順にお願いしたいと思います。まず、山本中央区長、お願いいたします。

○山本中央区長

それでは失礼をいたします。2点をお話をさせていただきます。世界陸上・デフリンピックを契機としたさらなるスポーツ振興、並びに身近なスポーツ環境のさらなる充実、この2点でございます。

1点目ですが、本区ではこれまでも、区民、ひいては都民の運動習慣の定着、健康増進

のために、「区民スポーツの日」、各種教室、障害者スポーツ体験会、スポーツ指導者の育成等のスポーツ事業や総合スポーツセンターほか、スポーツ施設の運営、学校施設のスポーツ開放などのスポーツの場の確保に努めてまいりました。こうした中、昨年10月の「区民スポーツの日」では、東京都にデフリンピックの啓発ブースを設けていただき、来場者に、音ではなく光の合図でスタートするデフ陸上を体験していただきました。また、毎年、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会から講師をお招きし、障害者スポーツ概論の講義を通して、本区のスポーツ指導者の育成にご助力をいただいております。これらの取り組みを一層進めるため、今年東京で開催される世界陸上やデフリンピックの気運醸成を図る中で、昨年に引き続き「区民スポーツの日」に啓発ブースを設置していただくなど、子供から高齢者まで、障害の有無にかかわらず誰もがスポーツを楽しめるよう連携を強化し、スポーツ・パラスポーツ振興のためのさらなる一步を踏み出すきっかけといたしたいと存じます。これ、1点目です。

2点目です。東京都は、本年3月改定予定である「（次期）東京都スポーツ推進総合計画」の中間まとめ素案において、「スポーツ FACILITIES プロジェクト」として、「身近なスポーツ環境のさらなる充実」を謳っておられます。本区においても、「中央区基本計画 2023」のリーディングプロジェクトのひとつに位置づけております「水とみどりプロジェクト」において、都内随一の水辺空間を有する本区の特性を生かしたまちづくりを掲げており、都市基盤整備などの機会を捉えて、早期に水辺の遊歩道を連続化し、回遊性を高めて、誰もが快適に水辺のウォーキングを楽しめる歩行者ネットワークを形成したいと考えております。また、「中央区スポーツ推進ビジョン」では、都心機能が集積する本区において、限られたスペースと施設の有効活用を図りながら、スポーツ施設の充実や利便性を向上させることを目指し、水辺を含めた新たなスポーツの場の創出について検討しております。このような地域特性を生かした各区の身近なスポーツ環境整備の取組に対し、積極的な連携・支援をお願いいたしたいと存じます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○田中行政部長

ありがとうございます。次に、山田北区長、よろしくお願いいたします。

○山田北区長

私たち北区では、北区内に国のトップアスリートが集まるNTC、ナショナルトレーニングセンターを2つ、イーストも含めて抱えております。

今回、デフリンピックについて、まず1点目ですが、競技開催、競技の観戦につきまして、ナショナルトレーニングセンターイーストで射撃の会場となります。この競技特性上の課題があることから、観戦が難しいということで示されておりますが、こちらについて、ぜひ近隣の小中学生、特に子供たちに見学ができないか、こういったこともぜひご相談をさせていただきたいというのが1点であります。

そして大きく2点目につきましては、「（次期）東京都スポーツ推進総合計画」について二つです。

一つは本区でも令和6年、7年、2か年かけまして「北区スポーツ推進計画」の改定を予定しております。その中でeスポーツの取り扱い、そしてもう一つは、アーバンスポーツについての検討を進めております。東京都では、「（次期）東京都スポーツ推進総合計画」の中間まとめ案の中で、eスポーツの活用に関する調査・検討を行っていくと示されておりますが、現時点で、東京都としてeスポーツをスポーツとして捉えているか、その点について伺いたいと思います。また、調査・検討内容があれば、具体的にご指導いただきたいと思います。

もう1点は、アーバンスポーツについても同じく、都では有明アーバンスポーツパークが開業され、若者に大人気である都市型スポーツとして創出されています。今後、東京都のアーバンスポーツに対するハード面やソフト面での施設展開について、具体的な内容をご教示いただければと思います。以上です。よろしくお願いいたします。

○田中行政部長

ありがとうございます。続きまして、長谷部渋谷区長、よろしくお願いいたします。

○長谷部渋谷区長

渋谷区から2点です。

まず、地域スポーツの振興ということで、部活動の移行、3年前から一般社団法人を立ち上げて取り組んでまいりました。だいぶ進行してきていてですね、ボッチャ部とか、ダンス、ボウリング、フェンシング、eスポーツ、プログラミング、また服部栄養専門学校での料理部みたいなものもできたり、その学校を飛び出て合同でやる部活みたいなものが、少しずつですが始まりました。新しいことにはもっとチャレンジしようと思ってますので、引き続き、また財政的含めてですね、ご支援をお願いしたいというふうに思っています。

あとはもう一つは、パラスポーツです。こちらもかねてより、渋谷区、力を入れておりまして、昨日も「パラ卓球区長杯」というのをやってきたところです。その他にも、車いすラグビー、バトミントンと、パラ競技だったものは引き続き応援していきます。で、今回も、デフリンピックは開会式が東京体育館ということですので、できる限りのことはやろうと思いますので、何かあれば、むしろご要望いただければと思いますし、これからもし可能性があるなら、その、シティドレッシングっていうかですね。デフリンピックが、やっぱり、言ってもまだ認知度が低いと思いますので、街をあげて何か一緒にできたらと思います。例えば原宿駅から東京体育館までの道のりですとか、千駄ヶ谷駅周辺の東京体育館とかですね、表参道なんかは東京都道ですので、ぜひ、そこで何かやっていただけると、弾みがつくかなという気もしております。ご検討、ぜひしてください。

○田中行政部長

ありがとうございます。それでは最後に、大久保江東区長、よろしくお願いいたします。

○大久保江東区長

では、私から2点申し上げます。

1点目は、デフリンピックの気運醸成についてでございます。江東区では、かねてより「SPORTS & SUPPORTS スポーツと人情のまち」としてスポーツ振興に取り組んでまいりました。東京2025デフリンピックでは、本区でも、ゴルフ、水泳、テニスの3競技が実施されますことから、地元区としても大会の成功に向けて積極的に取り組んでまいります。区では、大会を契機としたデフスポーツ、パラスポーツに対する理解醸成、大会のさらなる盛り上げに向けて、区民の皆さんを対象とした無料の競技観戦ツアーを来年度実施予定としてございます。区内の競技会場までバスで送迎するほか、ツアー参加者向けにデフスポーツの特徴や応援方法を学べる講習会も実施し、デフスポーツをより深く理解し、みんなで楽しみながら応援できる機会を提供する予定です。大会の気運醸成に向けた取組を今後も進めていきますが、さらなるPRの拡充のため、都と区市町村が連携した広域的な広報、PRの取組について、さらなる展開を図ってまいりたく、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、オリンピック・パラリンピックの時もそうでしたが、やはり地元選手の活躍は大会の気運醸成に大きな効果がございます。ただ、なかなかデフアスリートの情報は区市町村では把握しづらいことから、可能でありましたら、日本代表選手のゆかりの自治体などの情報について、都において集約いただき、ご提供いただきましたら幸いです。

2点目は、東京2020大会レガシー施設の活用についてでございます。江東区内には東京大会の競技会場をはじめ、多くの都立スポーツ施設が設置されており、日常的な利用から大規模なイベントまで区内外の方に利用されてございます。昨年10月には有明アーバンスポーツパークがオープンし、また今年の秋には辰巳アイスアリーナの開業が予定されており、区民の方もこれを大変楽しみにしておられるなど、今後も大きな賑わいが期待されます。江東区としても、これを契機にさらなるスポーツ振興を図りたく、また持続可能な施設運営に当たりましては、周辺地域住民の理解と協力がやはり必要でございますことから、ぜひ、地域住民や、また区内の小中学校の子供たちがこの施設を親しめるような利用の機会やイベントへの招待などについて、ご検討いただきましたら幸いです。

私からは以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○田中行政部長

ありがとうございました。各区長から、有意義なご意見であったり、ご質問がございました。ありがとうございます。いろいろご質問やご要望のあった件につきましては、また別途、個別にお答えさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、お時間が近づいてまいりましたので、最後、小池知事からご発言をよろしくお願いいたします。

○小池知事

皆さん、ありがとうございます。すでに世陸・デフ、それぞれの地域で、会場や子供たちへの周知などなど、すでに始めていただいていること、また非常に有意義なご意見、ご提案などをいただきました。ご質問等もございましたので、それに対しては後ほど、それぞれ担当からお答えさせていただいて、そして気運の醸成、これをですね、共に都と区が連携して進めていきたいと思っております。

皆さんからご発言ありましたけれども、スポーツというのは、ただ個人の健康だけでなく、地域振興、そして経済の活性化、まちづくり、人と人とのつながり、本当に多様な効果をもたらしてくれるものでございます。社会そのものをより良く変えていくエネルギーになるのではないかと、このように思います。

そして、今回いただきましたご意見も参考にしながら、先ほど申し上げました「東京都スポーツ推進総合計画」を策定してまいります。

そこに、より一層、スポーツの推進に取り組んでいく恒常的な体制を構築する、そのために、今回、組織編成をいたしまして、生活文化局にスポーツ推進本部を新たに設置をいたしまして、この世界陸上・デフリンピックをはじめとするスポーツで、東京を明るく元気に、そしてまちづくりも進めていこうというものでございます。

ぜひ、世界陸上・デフリンピック、成功させていく。そして、それによって子供たちが直接スポーツに触れるという、2020大会の時の思いもいろいろございますので、ぜひ今回、この2025年の大きな大会二つ、皆様と共に成功させていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。共に頑張ってまいりましょう。

○田中行政部長

ありがとうございます。以上をもちまして、意見交換を終了させていただきます。本日はご多忙のところ、誠にありがとうございました。

— 了 —